



11月の園だより



令和5年11月1日
目黒区立鷹番保育園園長

先月はさわやかな秋空の下、運動会を盛大に行うことができました。保護者の皆様にも競技を盛り上げていただき感謝の気持ちでいっぱいです。連絡帳にも「親子で楽しめました」「かわいさとかっこよさと成長が感じられました」「思い出に残る運動会になりました」ほか数々の感想をいただきました。運動会後の園庭遊びでは運動会ごっこで全クラスが楽しみました。1,2歳児が5歳児クラスの競技をしっかりと覚えていて、一緒に参加している姿はほほえましかったです。大縄跳びでは1,2歳児にはへびのように縄を揺らすとピョンと跳び越えていましたが、自分たちも5歳児のように縄を回してほしいという子もいて、同じように回している縄の下に入り、ジャンプして満足そうにしていました。キッズソーランは得意げに片手をあげ「ヤア」の掛け声もそろい迫力がありました。リレーも混合チームで行いバトンを持って走る1,2歳児を笑顔で見守る5歳児の姿がありました。どの場面でも年長児がしゃがんで1,2歳児に「こっちだよ」「こうやるんだよ」と優しく声をかけ、時には手をつないで移動している姿がありました。お互いが親しみを持って関わっていることを目の当たりにして心が温くなりました。

芋掘り遠足も好天に恵まれました。柔らかな土の感触を手足で感じ、芋の周りの土を丁寧に掘り進める子や力任せに引っ張る子、芋をゆすりながら軽くなる感覚に“今だ”とばかりに引き抜く職人のような子など様々でした。楽しみにしていたお弁当はみんな大喜びでおいしく楽しく食べ、林の中で虫や木の実を探したりバナナ鬼をしたりと秋を満喫した一日でした。今後は散歩や園庭でも秋を存分に楽しみたいと思います。

行事予定

- 乳児お楽しみ会（乳児クラス）
- 焼き芋会（全クラス）
- 歯科検診
- ポニー教室（5歳児クラス）
- 交通安全教室（5歳児クラス）
- 身体計測 避難訓練



子どものつぶやき、ほのぼのエピソード

子どもと保育士が砂山を作っていると、もう一人がやってきて「お砂かけて、手でベタベターってやるとお山ができるよ」と教えてくれ、三人で山を作り始めました。固めの山ができたところで保育士が両脇からトンネルを掘っていると、子どもたちも両方の穴からそっと手を入れ、中で手が触れると「やった、トンネルだね」「がんばったからだね」と握手しながらおよろこびでした。

1,2歳児クラス

稲刈りをしている時に、稲にてんとう虫が止まっているのに保育士が気づき「見て、幸せのてんとう虫だよ」と言うと子どもたちが集まってきました。てんとう虫を見つけると「キックボクシングがうまくなりますように」「サッカーが強くなりますように」「プリンスセスに会えますように」「お金持ちになりますように」とそれぞれ願い事を言っていました。可愛らしい願いが叶いますように。

5歳児クラス



戸外遊びの様子



「二人滑りしよう」

1,2歳児クラス

園庭で滑り台を滑っている子がいました。そこへもう一人、滑りにやってきました。同時に座ったので、どちらが先に滑るか、押し合いになってしまいました。「二人で一緒に滑れるかな」と保育士が声をかけると「一緒がいい」と一人の子が言い、もう一人の子も納得した表情です。横に並んで同時に滑り出しましたが、すぐに一人が先に滑って行ってしまい、2人は離れてしまいます。「もう一回」と言って再び同時に滑り出しますが、やはり滑り出すと一人が先に滑って行ってしまい「あー」と残念そうです。「こうやって、離れないようにするのはどうかな」と、保育士が背中に手を回すような仕草を見せてみると「やりたい」と言って、再び階段を上り、友達の背中に手を回してから滑り出しました。今度は最後までぴったりくっついたまま滑る事ができ、嬉しそうです。「もう一回やろう」と足早に階段を上っていきました。「次は〇〇ちゃんと滑りたい」「〇〇ちゃん、二人滑りしよう」と他の友達にも声をかけ、誘われた友達も嬉しそうです。一人で滑る楽しさもあるのですが、今は友達と一緒に滑る事が嬉しい子どもたちです。戸外で体を動かして遊びながら、楽しい経験を友達と一緒にたくさん共有していきたいと思います。



「集まって」

5歳児クラス

園庭に出ると「あや跳び跳べるようになりたい」と短縄跳びを練習したり、友達と大縄を回して大縄跳びを楽しんだりして、友達と一緒にたくさん体を動かし遊んでいます。うさぎ組と運動会ごっこをしたときには、ソーラン節の踊りを得意げに教え、異年齢交流を楽しんでいました。

集団遊びでは「バナナ鬼する人、集まって」と声を掛ける友達がいると、クラス全員が集まることがあるくらい、みんなと活動することが楽しい様子です。参加する友達が段々増えて、誰が鬼なのかわからなくなってしまった時には「バナナ鬼してる人、集まって」と声を掛ける子がいました。「どうしたの」とみんなが集まると「途中で鬼が増えてびっくりしちゃったの。鬼になるなら、ちゃんと言ってほしい」と伝えています。「あ、僕です。鬼になりたいです」とすぐに友達が反応し「わかった、じゃあ始めよう」と遊びを再開しています。その後も何かあるごとに「ちょっと集まって」のやりとりがあり、自分たちで問題解決して遊びを楽しむ姿に頼もしさを感じました。「さっき鬼やったから、誰か代わって」「どうして〇〇くんはいつも鬼やらないの」と、気持ちを伝え合いながら、時には長い話し合いになることもありますが、みんなで集団ゲームを楽しみたい気持ちは一緒に「ジャンケンで決めよう」「さっき鬼やらなかったから、代わるよ」と、どうしたらみんなが納得してゲームをすすめられるかを試行錯誤しています。大きな行事をみんなで成功させようと取り組んできた経験の中で、どうしたら友達に思いが伝わるかを考えたり、相手の気持ちを考えたりして、みんなで活動する喜びを重ねてきたことが、日々の遊びの中にも表れていると感じる姿です。これからも、友達との関係が深まるような活動をたくさん行っていきます。